

ポブベっくのやさしい投資信託

第20回 転換社債に投資するファンド その1

第11回から第19回まで9回にわたって、債券に投資するファンドについて解説してきました。債券に投資するファンド、特に国内の債券に投資するファンドのリスクは比較的小さいという事は、ご理解頂けたでしょうか。

ただ、リスクが小さいという事は、収益もそれほど多くは期待できないという事です。ここ数年日本は未曾有の低金利が続いています。そんな中、多少リスクはとって、国内債券に投資するよりは大きな収益を狙いたいというお客様も、多いのではないのでしょうか。また、債券は金利が上がれば価格が下がりますから、「今後金利は上昇する」と考え、国内債券に投資するファンドは購入したくないと考えるお客様もいらっしゃるでしょう。そこで、多少リスクはあるものの、国内債券に投資するファンドよりは大きな収益が期待できるファンドについて、そのリスクとリターンを説明しましょう。まずは転換社債に投資するファンドです。

(7) 転換社債ファンドのリスク

(a) 転換社債って何？

株式は上昇すると思うけど、値下がりを見ると株式投信を購入するのは怖い。そんな方には転換社債ファンドがお勧めです。ただし、転換社債の性格を理解してから購入を考えないと、期待した結果が得られずに後悔する事もあるのです。そこで、まずは転換社債の性格を解説しましょう。

転換社債は社債、つまり債券です。ただし、発行時に決められた値段で、株式に転換できるのです。転換価格（株式に転換できる株価）が200円とすると100万円の転換社債は、

$$100 \text{万円} \div 200 \text{円} = 5000 \text{株}$$

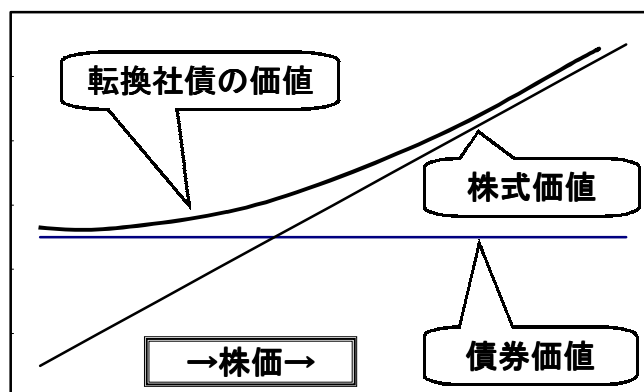
の株式に転換できます。すると株式が300円になってもその転換社債は5000株に転換

できるわけですから

$$5000 \text{株} \times 300 \text{円} = 150 \text{万円}$$

の価値があることになります。つまり100万円の転換社債（転換価格が200円の場合）が、株式が300円になることで150万円に上昇するのです。

株式が上昇すれば、それに比例して上昇する転換社債ですが、株式が下落した時にも株式に連動して下落するわけではありません。株価が転換社債の発行時から2倍になった時には社債も2倍になりますが、株式が半分になったからといって、転換社債が半分になるわけではないのです。何故なら、転換社債は債券としての価値があるからなのです。つまり定期的に利子が支払われ、償還日には額面で返済されるのです。ですから、株式が下落しても、債券としての価値が転換社債の価格を下支えするのです。これを図にすると以下のようになります。



しかし、この絵だけでは少々誤解を生みます。何故なら、この絵だけを見ると、転換社債は、ある決まった値段（例えば100円）以下には下がらないように見えるからです。

ここで、債券の性格を思い出しましょう。債券は金利が上がると価格が下がり、金利が下がると価格が上がるのでしたね。また、事業債の場合は、格付け（会社の信用度、つまり元本をちゃんと返せるかどうか）が下がると値段が下がります。ある決まった値段以下に下がらないわけではないのです。債券価値が転換社債の価格下落の歯止めとなるものの、その債券価値は金利の水準やそ

の会社の信用度の変化によって変わるとい
う事なのです。